

大項目	小項目		自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて	
	評価内容	小項目	中項目	現況	中項目	意見・提言等		
1 学習をつくる	(1)授業改善	①支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践 (1-1)	A	A	・小中合同での「学び合い」を核にすえた、校内研究研修はよく取り組んでいる。 ・学び合い学習の日常化をどの学級でもさらに進めたい。たてわり学習でも今後も継続して取り組む。 ・授業研究の成果を全体に広め、残すような校内研便りを発行したい。 ・学年の枠にとらわれず、異学年合同、たてわり活動の実践を柔軟に行っている。 ・コミュニケーションの幅(あいさつを含む)が狭いので、広げていきたい。	A	・講師を招いての校内研修会は、少人数の教師集団にとり、大変良い刺激になっている。 ・中学まで同じメンバーなので、早い時期に悪い印象を持ち、後々引きずることのないよう願っている。	・今後も合同学習等、学習形態を工夫しながら、主体的、対話的な学びを進めていく。 ・少人数の利点を生かしたきめ細かな指導を続け、その成果についても検証していく。
		②協同する体験、伝え合う喜び、コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (1-2)	A					
		③学び合いを追求する授業研究会や研修会 (1-3)	A					
	(2)基礎基本の徹底	①学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善 (4-10)	A	A	(小)・すすく算数など、子どもたち進め方が分かってきて成果が出ている。 (小)・朝の時間を有効に使った学習活動がある。また、補充学習で反復学習ができています。 (小)・少人数の利点を生かし、きめ細かな指導ができています。 (中)・「帰らぬ夏」夏休みの補習等で、基礎基本の定着を図っている。 (中)・高校入試を目標とするとき、時数等の関係もあり、基礎固めが十分にできているか疑問である。	A	・少人数の利点を生かし、子ども一人一人に基礎・基本を徹底してもらいたい。 ・学力向上の達成目標を具体的に設定することはできないか。	・小規模特認校、小中一貫教育の推進に向け、特にカリキュラム作成について準備を進める。
		②朝の読書や読み聞かせ、すすく算数・補充学習の実践	A					
	(3)小中連携の授業づくり	①教科及び生活全般の中で、子どもが楽しく学び合うための実践が連携してなされ、育てたい子どもの力が身につけている	A	A	・中学校との交流で、中学生のリーダーシップや言葉かけが小学生のよい手本となっている。 ・常に小中が連携し活動を行っている。子どもだけでなく教師の交流も自然に行われている。 ・特認校へ向けてカリキュラムの見直しを全員で進める。 ・授業公開は、定期的に公開週間をとってできている。 ・授業公開をもっと積極的にやりたい。 (小)・小一中への授業実現が難しい。合同授業を実施して連携をとっていきたい。	A	・小中連携は葛川のセールスポイントである。今まで以上に進めていきたい。 ・小中一つで葛川という意識が育っている。特に小学生にはメリットが大きい。中学生にも自分たちのプラスになることを理解して進めてほしい。	
②子どもの校種間交流や教員の出前授業 (5-2-16)		A						
③校種間の合同研修会 (5-2-17)		A						
④校種間の授業公開、カリキュラム研究 (5-2-18)		小B 中A						
2 学習を支える	(1)生徒指導	①思いやりの心や社会のルールを守ろうとする態度を大切にしている	A	A	・「自らあいさつ」という点が弱い。していないわけではないが、声の大きさが小さいことも多い。 ・子どもからの積極的なあいさつはもっと増やしてほしい。 ・子どもにもよるが、気持ちのよいあいさつはあまりできていない。粘り強く声をかける必要がある。 ・生徒のあいさつ(特に朝)が少ない。 (小)・心ない言葉や言い方が見られることもあり残念。根強い指導が必要。 (小)・「あいさつ」「落ちついて学習」は、子どもの精神状態などもあり、難しいこともあるが、できる限り落ちついて過ごせるように声かけを続けていきたい。 (中)・一人ひとりの子どもやその子どもを支える家庭や地域での生活についての情報を把握し、生徒理解・指導に役立てている。 (中)・生徒指導主事を中心に、ほぼ毎日生徒のことを話し合い、組織的に指導している。 (中)・去年よりも生徒指導・教育相談の体制がしっかりと確立できた。	B	・あいさつについては、バス通学のため地元の人のふれあいが少ないのが気になる。その点を工夫していただきたい。 ・あいさつは保護者への役割が大きい。保護者へも働きかけをする。 ・自分より弱者への心配りができるようにしてほしい。 ・地域密着で小さい頃から育てているため、公共の場での対応が育ちにくいのかもかもしれない。これからは大人が見本を示すことを根強く続けていただきたい。	・あいさつ、きまり、言葉遣い等について重点的に根強く指導を進める。 ・小中で連携した、生徒指導、教育相談体制を確立することを目指す。
		②気持ちのよいあいさつができています	B					
		③きまりを守り、落ち着いて学習できる	小B 中A					
		④友だちと楽しく元気に遊ぶことができる	A					
		⑤良いことや悪いことについて指導がされている	A					
		⑥いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 (6-1-19)	A					
		⑦生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 (6-1-20)	A					
		⑧6つの約束の徹底(家庭・地域・関係機関との連携による指導) (6-1-21)	A					
	(2)環境教育	①環境教育について共通理解して実践に努めている。	A	A	・学校林活動を通して実践しているものの、系統立てての教育が必要である。 ・学校林を中核に、十分に取り組んでいる。 ・教員全体に周知するまでに、もう少し時間がかかる。 (中)・環境標語作成、掲示等、工夫している。	A	・学校林活動等でできていると思う。	・小中の系統性が持てるよう、カリキュラムを見直す。
	(3)特別支援教育	①個別の指導計画の作成と活用 (6-2-22)	小B 中A	A	(小)・個別の指導計画については、作成において保護者との連携をどうしていくのが課題。 (小)・個別の指導計画は、今年度のまとめと次年度への引継ぎをする。 (中)・個々に課題のある児童に関して、目標を立てることで教師も見通しを持って指導できている。 (中)・担当の先生を中心に常に情報を共有しながら取り組んでいる。 (中)・今後をより充実させるために、担当の先生中心に取り組めた。	A	・少人数の利点を生かし、組織的、計画的に進めていただきたい。 ・特別支援教育の校内研修でも是非外部講師を招聘していただきたい。	・関係機関や外部講師から支援の方法を学ぶ。小中で情報を共有しながら、個々の発達支援を進める。
②組織的・計画的な特別支援体制の確立 (6-2-23)		A						
③関係機関と連携した相談体制の充実 (6-2-24)		A						
④特別支援教育について、共通の姿勢で実践に努めている		A						
(4)道徳教育	①生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施 (2-4)	A	A	・子どもが意欲的に道徳の時間に考えられるよう教材(資料)を工夫している。 ・全校道徳参観を通し、指導案作りや実践交流をして教師の力量を高めている。 ・もっと道徳の資料の開発や整備を行ってほしい。 (小)・道徳参観の前には担任で集まって相談をし、よりよいものになるようにしている。 (中)・学級担任以外も授業をする機会を設けて、積極的に取り組んでいる。特別教科化への取り組みも始めた。	A	・道徳性を評価するのは難しいと考える。教師間で十分研修してほしい。	・道徳の教科化に向け、情報収集、実践交流を進めていく。	
	②道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流 (2-5)	B						
	③保護者等への道徳の授業公開 (2-6)	A						
(5)体力づくり	①たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善 (3-7)	A	A	・発達段階に応じて合同体育がなされ、工夫されている。毎年行うことで、子どもの伸びが分かる。 ・小学校は年間体育、中学校は部活動全員参加で取り組んでいる。 ・全校体育や小高学年との合同体育により、意欲が高められた。 (小)・授業だけでなく、わくわくスポーツでも様々な遊びが取り入れられていて、子どもが楽しみながら体力がつけられている。 (中)・毎時間授業の中にトレーニングを入れている。	A	・部活動の全員参加は良いことである。 ・体力がなければ、気力も伴ってこない。より力を入れて進めてほしい。	・小中が連携し、運動に対する児童生徒の興味関心を高める取組を進める。	
	②体力づくりを推進する運動実践 (3-8)	A						
	③体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成 (3-9)	A						
(6)人権教育	①人権教育について、共通理解して実践に努めている	A	A	(小)・社会人活用講師として地域にお住まいのネイティブスピーカーの方に教えていただいている中で、海外の国のことについて学ぶ機会がたくさんある。 (中)・人権教室のジャグリング、国際理解学習のカードやグループ学習は、生徒に好評であった。 (中)・国際理解教育については、単発に終わらずにできるようにしたい。	A	・外部講師を招いていることは大変良いことである。今後も外部人材を活用して児童生徒に広い社会を知る機会を与えていただきたい。 ・アジアへの理解も進めてほしい。	・外部人材を活用しながら児童生徒の視野が広がるような学習を進める。	
	②国際理解教育について、共通理解して実践に努めている	A						
(7)キャリア教育	①働くことの意義を感じる職業体験学習を行う。	A	A	・夢プロジェクト(小6)や職場体験(中2)を通して学習が深められている。 ・子どもの自主的活動が多く見られる。 (中)・職場体験では、今年も堅田エリア中心に個に応じた体験先を選定、開拓できた。 (中)・職場体験には生徒全員ががんばって、前向きに取り組めた。各職場からの評価も高かった。	A	・職場体験は大変よいことである。	・児童生徒の自立に向けて、発達段階を考慮し、系統性のあるキャリア教育を進める。 ・児童会・生徒会の連携を重視した取組を進める。	
(8)特別活動	①子どもの主体性・積極性を育む実践に努めている	A	A					
3 学校をつくる	(1)安全な学校づくり	①防災教育の推進と安心・安全な学校づくり (5-1-15)	A	A	・雨量が多くなることでの下校判断が課題。 ・児童に防災についてどんなことが起こりえるのか考えさせる教育が必要。 ・避難訓練も年3回、しっかり取り組んでいる。 ・丁寧な給食週間の取り組みができた。	A	・一日の大半は地域(家庭)で過ごしているため、そのときに災害が起こったときどうするかを学校でも指導していただきたい。 ・何が起こるか分からない世の中なので、家庭へも啓発をお願いします。	・関係機関、地域と連携しながら、実際に役立つ防災教育を工夫する。
		②児童が健康で安全な生活を送るための基礎的な知識や生活習慣を身につけるよう家庭と連携しながら適切に指導している	A					
	(2)役割と責任(組織的・計画的)	①教職員の指導力及び3公・3現の2原則に立った組織的な教育力の向上 (4-11)	A	A	・ICT機器が整備され、授業に幅が出てきたが、もっと活用を進めていきたい。 ・校務分掌は責任を持って協力してできている。 ・仕方がないが、校務分掌の多さにより時間が取られすぎる。 ・適切な役割分担になっているかは再検討の必要がある。時期にもよるが、一人に仕事が集中することが多い。	A	・先生方一人一人の力が重要である。今後もICT活用を充実させていきたい。 ・保護者と一緒の研修をしてもおもしろいのではないかと。 ・他校とネットにつながる取組があるので、その取組でいろいろな可能性が広がるのではないかと。	・小中一貫教育推進に向けて校務分掌の整理を進める。 ・タブレット、テレビ会議等、ICT機器を活用した学習をさらに進める。
		②ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善 (4-12)	A					
		③円滑な学校経営のために必要な校務分掌を検討し、位置づけ、担当者が責任と役割意識をもてるようになっている。	A					
	(3)地域と共に	①保護者の子育てに対する積極的な支援 (5-1-13)	A	A	・地域行事等で保護者の方と出会う機会が多くあり、情報共有や連携がうまくとれている。参観にも積極的に参加して下さっている。これからは地域と関連した授業を展開していきたい。 ・保護者の協力が大きく、学校と共に教育活動をしていこうと下さっていることがよく分かる。 ・保護者との連絡を密にし、保護者の思いや家庭環境に十分配慮して生徒の指導を行っている。 ・子どもを中心に地域、学校が積極的につながろうとしている。運動会、紅葉祭、KTだけでなく、あらゆる教育活動に於いて、家庭や地域をいつも意識して取り組んでいる。 ・地域とのつながりを大切にしている。学習にも関わっていただけるのが、ありがたいことです。 ・地域清掃、運動会、紅葉祭、KTなど、地域との連携はよくできている。地域の学校でありたい。 ・学校存続の強い願いを、学校と保護者と地域が共有している。 (小)・伊香立保育園との交流は、子どもにとって有意義であった。葛川の子はいなくなるが、続けていければと思う。 (小)・保育園はないが、異学年との交流はよくできている。	A	・「KTふれあいの輪」の児童生徒の発表は良かった。 ・今後も地域と共にある学校であってほしい。 ・行事を通じての地域とのふれあいは大事だが、日常のふれあいを進めていくために授業公開を保護者以外にも広報していただきたい。 ・学校周辺の美化活動や授業参観等を通じて地元の人の出入りが多くなれば、学校の安全にもつながるのではないかと。 ・地域との交流を通して、児童生徒が地域の中での自分の置かれた立場を自覚し、行動に生かせるよう、お願いしたい。	・小規模特認校実施に向け、地域との連携は必須である。地域の方に協働・参画していただきながら今後の学校作りを進めていく。
		②保護者の悩みを聞く個別相談の実施	A					
		③保育園との交流・連携(小低学年との交流、5-5交流、保小連絡会)	小A					
		④保護者・地域との交流や情報発信・参観・懇談会・研修会の実施、地域人材の活用 (5-1-14)	A					
		⑤教育方針や学校の取り組みをわかりやすく伝えている	A					
⑥運動会・紅葉祭・授業参観は、参加しやすいように設定されている		A						
⑦地域の「もの・ひと・こと」を積極的に授業に取り入れている		A						
学校満足度	児童生徒の学校満足度	小A 中B	小A 中B	ほぼ良好と考える。	小A 中B	ほぼ良好と考える。		